

早稲田大学AEONTOWAリサーチセンター 環境課題をコンセプトとした商品づくりと消費者参加のしくみ

成果報告

沖縄県西表島での資源循環の構築

西表島PJ

中野健太郎 環境総合研究センター主任研究員



AEONTOWAの関連現場に率先して参加、
学生以上にアクティブに動く2児の父。
専門は地域エネルギーマネジメント、地域資源
循環構築、社会実装のマネジメント。

AEONTOWAの研究や教育現場では、里山（地域
資源循環を含む）を通じて社会の課題の本質を考
える機会を得た。こうした現場からの研究構築が、硬直
化した大学の研究開発に新しい風を巻き起こすので
はないかと期待している。

「イオンの里山」研究の展開 (2024年度の重点テーマ)

地域の資源循環やさまざまなモノやコトのつながりに着目し、持続可能な社会の構築に資する研究開発、人材育成に繋がる教育を展開する。

お買い物行動と環境教育 (北九州を中心に)

北九州のイオンモール八幡東における買い物行動と環境ミュージアムでの環境教育の実践。**買い物行動の分析**。

成長した植樹樹木の利活用 (沖縄・広島・長崎など)

植樹を通じたメッセージをどのように伝えるか。平和・教訓・福祉などと連携した多面的な価値。

買い物困難地域のコミュニティ再構築 (福島被災地)

福島の広野、浪江、双葉における小型イオン店舗による新しい買い物支援のあり方。コミュニティ構築のあり方。

地域のバイオマスなど資源利活用 (COI-NEXT)

生物由来資源の利活用を見直し、脱プラスチックやカーボンニュートラル、そしてネイチャーポジティブをめざす。

西表島PJ

お買い物とネイチャーポジティブ (エコパーク関連)

宮崎県綾町、南島原市でのイオンの森活動と**買い物活動とネイチャーポジティブ市民活動**の関係に関する研究。

店舗における資源循環 (南栗橋を中心に)

店舗等の回収資源の結節点を生かした循環型社会の構築とそのための支援ツールと社会システムの開発。

中山間地域の自然環境保全 (能登被災地)

中山間地域における**生態系サービスを活かした生業づくり**と持続可能な社会づくりに関する研究。

店舗におけるエネルギー調達

地域の創エネ活動に、イオンが店舗の電力調達をする上での課題等の調査研究。買い物行動との紐付けなど。



深刻な海洋プラスチックゴミ



撮影：西表野生生物保護センター

イリオモテヤマネコ



環境対応を求められる農業

イオン環境財団が応援をする世界自然遺産の西表島は、固有種であるイリオモテヤマネコなど生物多様性に富んだエリアである。しかし一方でプラスチック漂着ゴミ問題が深刻であり、発生源が止められない限り、清掃という努力が不可欠であること。また、農業などの人間の営みは、生態系の攪乱となる可能性があり、環境配慮の農作業が求められる。

世界自然遺産に選定されたが、地域は返って制約が大きくなった部分もある。環境と生業の維持の両立が不可欠であり、特に一次生産者の応援が大切。



そこで、われわれはそうした環境配慮が求められる農家をサポートするために、環境負荷の小さい農法を育苗やロボット技術などで支え、その一方で作られた米を泡盛にし、消費者に販売する中で、その付加価値について研究をしようと取り組んできた。

消費者が生産者の現状に理解を示し応援する新しい消費をつくりたい



農家のお手伝いで月桃茶づくり



藻場・サンゴの視察



地域産品のパイナップルも満喫

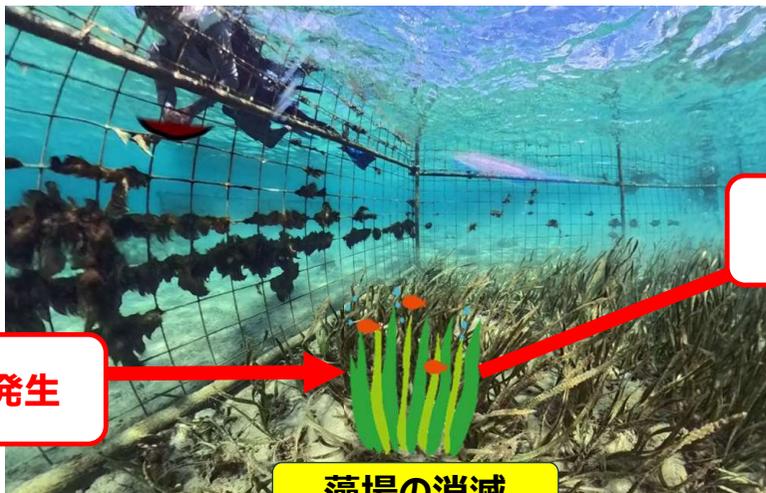
本年度は、AEONTOWA Students も実際に現地に入り、従来の海岸清掃だけでなく、研究の一環として現地の農家や畜産、海の状況、地域社会の状況などを視察した。こうした社会課題を踏まえ、Z世代と言われる若者の価値観の変容や、自分事化のプロセスを検証し、さらに若者参加で、泡盛の製品コンセプトや宣伝方法などの検討を行うというものである。

**世界自然遺産の島では、自然！ビーチ！おいしい食べ物を満喫！
というイメージだったが……通常の観光客には見えない課題が**



ウミガメの増加

食害の発生



藻場の消滅

小魚などの減少



漁業の不振



土壌の流出

窒素やリンなどの栄養物の流出

海水の富栄養化



サンゴの減少

この10年で保護柵の外はウミガメによる食害で藻場は砂漠化したような状態でした。この状態で陸上の土壌や栄養塩が流れ出るとサンゴの再生に悪影響があるとされています。現地のおじいさんは「この10年で海中の景色が全く変わってしまった」。

社会構造

社会システムが成熟して、物流の集約化や分業による効率化が図られてきた。各産業が独立して高度化し**縦軸の構造**ができてしまった。



堆肥化などから地域の**資源循環**をつくり、域外の資源に依存しない地域をつくろうと、地域の農家や畜産家が**連携しよう**という**横軸の動き**が出てきている。



泡盛PJは「横の繋がり・島の繋がり、産業の繋がり（農・工・小売）」を象徴する商品

自然生態系

偏った一部の種の保護や、産業の集積による特定の栄養塩などの流出が、生態系のバランスを崩してしまうとは思わなかった。**繋がり**が想定できなかった。



島での課題は、いろんな**課題と繋がり**がある。**生物多様性**を守るには地域活性化などの他の社会課題も含めた**一体的な解決**が必要である。

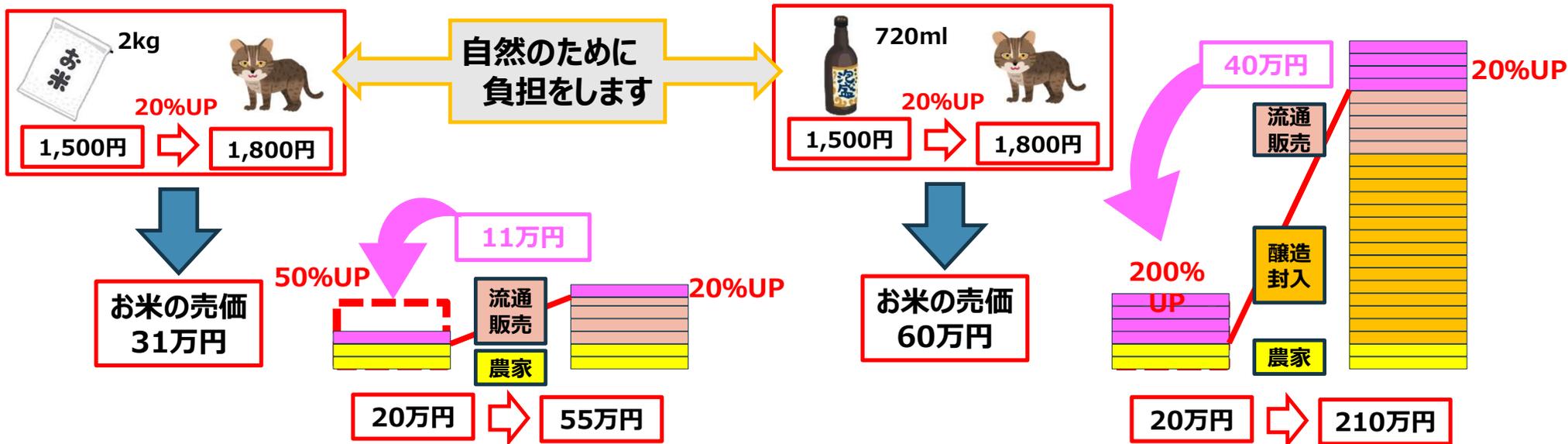


資源循環のアプローチでそれぞれが連関して横軸をつくることが求められる。社会の成熟で当たり前になっている縦軸の構造に横軸を通していきたい。

新しい切り口

地域の産業の横軸を通す

西表島PJ



600kgの米を米として販売した場合

600kgの米を泡盛を造って販売した場合



自然のために負担をします

価値向上分

6次産業化全体で1次産業を支える仕組みの実践



新しい切り口

地域の産業の横軸を通す

西表島PJ



伝えなければいけないこと、知ってもらわないといけないことがたくさんあります。
“今”を立ち会う皆さんと共にできることを、ちよつとずつ着実に積み重ねていきたいです。

地域連携のシンボル

一つの循環が好循環を

資源循環のありがたみ



知ることによって生まれる価値

「モノ」「コト」から「イミ」消費へ